



ラクリマ、涙 ～オートクチュールのきらめき～

作・演出：カロリーヌ・ギエラ・グエン Caroline Guiela Nguyen

【公演概要】(2月21日[金]詳細発表：内容は変更になる可能性があります。)

公演日時 (仮)：5月4日[日・祝] 16:00開演、5日[月・祝]13:00開演、6日[火・祝]12:30開演

会場：静岡芸術劇場 上演時間：2時間55分

フランス語・タミル語・英語・フランス手話上演／日本語・英語字幕

静岡県立の劇団SPACが毎年ゴールデンウィークに開催する国際演劇祭「SHIZUOKAせかい演劇祭」
今年フランスより、オートクチュールを支える職人たちに光を当てる話題作が登場！

フランス演劇界の新たな旗手、カロリーヌ・ギエラ・グエンの挑戦作

2023年にストラスブール国立劇場の芸術監督に就任し、今話題の演出家カロリーヌ・ギエラ・グエンが日本に初登場。フランスの国立劇場で現在唯一の女性芸術監督であり、ベトナムとアルジェリアにルーツを持つ彼女は、社会問題をテーマに、個人の記憶と集団の歴史を織り交ぜた作品を生み出してきました。ダイアナ妃のドレス製作秘話に着想を得て、レース職人や刺繍職人たちの交流から構築された本作は、ストラスブール国立劇場で彼女が初めて手がけた作品。舞台裏の職人たちの姿を「秘密」というテーマで鋭く描き出し、作り出される美の背後に潜む暴力や支配の構造を露わにします。実在性を重視した演出で、現代社会の陰影を鮮やかに照らし出し、静かな暴力にさらされる名もなき職人たちの姿を描く、必見の舞台となります。



夢が詰まった美しきオートクチュールの世界 ——名もなき職人たちの知られざる物語

舞台は2025年、英国王妃のウェディングドレス製作という壮大なプロジェクトが始動します。その夢のようなオファーを受けたのは、フランス・パリの老舗メゾンとアラソンのレース工房、そしてインド・ムンバイの刺繍工房。王室の儀式と高級仕立ての規則に従い、厳格な守秘義務のもとで何千時間にも及ぶ作業の末、歴史を刻む運命のドレスが生み出されます。リアリティあふれる緻密な舞台美術と3つの工房をスクリーンで繋ぐ巧みな空間で、秘められたオートクチュールの製作過程が披露されていきます。華やかな世界を支える職人たち一人一人の「小さな手」が仕立てるその縫い目に隠されているものは何なのか、ぜひご注目ください。



演出プロフィール カロリーヌ・ギエラ・グエン Caroline Guiela Nguyen

フランス・ポワシー生まれ。作家、映画監督、演出家。Les Hommes Approximatifs（訳：大体人間）主宰。2023年9月よりストラスブール国立劇場（TnS）のディレクターを務める。現実を忠実に映しながら、フィクションの力を用いて社会問題を描く作風が特徴。Les Hommes Approximatifsでは、見過ごされがちな人々に焦点を当て、プロ・アマチュアを問わない俳優と新たな物語を共同創作している。17年、アヴィニョン演劇祭で初演され、ベトナム人移民とフランスの植民地史の惨劇を絡めた『SAIGON』は、中国、オーストラリア、ベトナムなど15か国以上で上演され話題を呼んだ。また、刑務所内で撮影された映画『Les Engloutis』を制作するなど多岐にわたる活動を展開中。



『ラクリマ、涙 ～オートクチュールの^{きら}燦めき～』

作・演出：カロリーヌ・ギエラ・グエン 製作：ストラスブール国立劇場

<あらすじ>
パリの老舗メゾン・ベリアナのアトリエ主任マリオンは、英国王妃のウェディングドレス製作を任される。アランソンでは伝統レースを、インド・ムンバイでは刺繍職人たちが協力し、困難に立ち向かいながら8か月をかけて完成を目指す。職人たちの比類なき技術と秘められた苦悩が交錯する中、マリオン自身も家族関係や仕事のプレッシャーに揺れている。果たして、この歴史的なドレスは無事に完成するのだろうか？

【公演日程（仮）】

5月4日[日・祝] 16:00開演、5日[月・祝]13:00開演、6日[火・振休]12:30開演
フランス語、タミル語、英語上演、手話でのシーンあり/日本語・英語字幕
予定上演時間 約 2 時間 55 分（休憩なし）

【会場】 静岡芸術劇場

【チケット料金】 一般：7,000 円、U25・大学生：3,400 円ほか

【前売開始】 2025 年 3月22日（土）10:00～を予定

関連企画も準備中！

- <会期前>
- ・カロリーヌ・ギエラ・グエンへのインタビュー動画
 - ・刺繍ワークショップ企画
 - ・SHIZUOKAせかい演劇祭のリアルタイムをポッドキャストで配信

- <会期中>
- ・演出家とのフェスbarトーク、スペシャルトークを企画中



■ SHIZUOKAせかい演劇祭(旧:ふじのくに⇒せかい演劇祭)

公益財団法人静岡県舞台芸術センター(SPAC)では、2000年より「Shizuoka春の芸術祭」を毎年行い、各国から優れた舞台芸術作品を招聘・紹介してきました。SPACが活動15年目を迎えた2011年からは、名称を「ふじのくに⇒せかい演劇祭」とし、新たなスタートを切りました。静岡県の文化政策である「ふじのくに芸術回廊」と連携しながら、世界最先端の演劇はもちろん、ダンス、映像、音楽、優れた古典芸能などを招聘し、静岡で世界中のアーティストが出会い、交流する——そんなダイナミックな「ふじのくにと世界の交流(ふじのくに⇒せかい)」を理念としています。

2025年より名称を「SHIZUOKAせかい演劇祭」に改め、「しずおか」と「せかい」が一体(=イコール)となり、隣り合う人々が互いの「せかい」を共有できるハレの場を目指して進化します。